

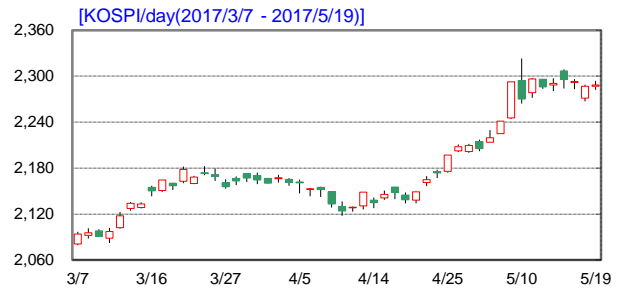


【韓国】 総合指数は週間で0.1%高と5週続伸、方向感乏しい 総じて小動き

先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で0.1%高と小幅ながら5週続伸。週を通して2290ポイント付近での小動きに終始した。指数が前週までに4週続伸し、前週後半に史上最高値を更新しただけに、利益確定売りが重荷。週明け15-16日は小幅続伸だったが、上値の重さが目立った。16日まで海外勢は3営業日連続の売り越し。週中からはトランプ米大統領や政権幹部とロシア政府の関係を巡る「ロシアゲート」疑惑が深まり、経済対策が実施しにくくなるとの見方が広がった。世界的にリスク回避の動きが加速する中で17-18日は続落。19日は前日のNY市場でダウ平均が反発したこともあり、小幅高で週の取引を終えた。今週は高値警戒感が引き続き相場の重しとなりそうだ。国内では17日に4月PPIが発表される。前月は4.2%の上昇だった。

▼指数チャート



【ロシア】 RTS 指数は1.1%安と反落、今週はOPEC総会まで神経質な展開か

先週の動き／今週の展望

RTS指数は週間で1.1%安と反落。ロシアとサウジアラビアの原油協調減産合意が2018年3月まで延長されたことを受けてブレント原油先物が52ドル台を回復し、株式相場も週中まで堅調に推移。RTS指数は16日に5月3日以来となる1120ドル台に上昇した。ブレント原油はその後も堅調で、減産延長合意を支えに19日には53ドル台後半まで上昇している。一方、RTS指数はトランプ米大統領とロシアの不透明な関係を巡り、同大統領が弾劾されるとの懸念が高まったことを受け、週後半はリスク回避の売りが優勢となった。18日には一時、前日比3.3%安の1068.34ドルまで急落し、19日はやや値を戻すも力不足で1087.75ドルで週の取引を終えた。今週は、25日のOPEC総会通過までは神経質な展開が続くか。

▼指数チャート

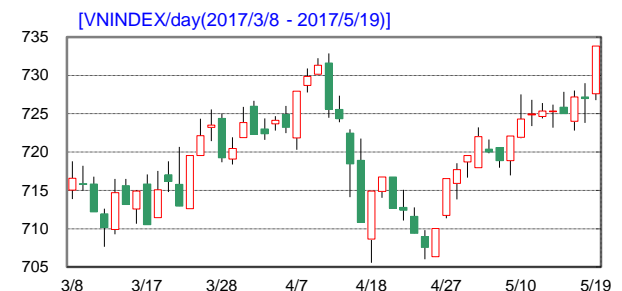


【ベトナム】 VN 指数は週間で1.2%高と4週続伸、今週は利益確定売りも想定

先週の動き／今週の展望

VN指数は週間で1.2%高と4週続伸。前週までの流れを引き継ぎ、高水準の売買代金を背景に堅調に推移した。売買代金は営業日すべて4兆ドンを超え、16日には2009年以來の5兆ドン突破となった。指数は売買代金を膨らませながらも週後半までは前週終値を挟んでもみ合い。ただ、19日はもみ合いから上放れた。格付け会社フィッチがベトナムの格付け見通しを「ポジティブ」に引き上げたことを支援材料に、19日は一段高。指数は前日比0.9%高の733.82ポイントの高値引けで52週高値を更新した。個別では、前週に指数をけん引したペトロリメックスが16.7%高と大幅続伸となり、上場来高値を更新して指数を押し上げた。今週は堅調を予想するも、RSIが69.97まで上昇していることから目先は利益確定売りも想定。

▼指数チャート



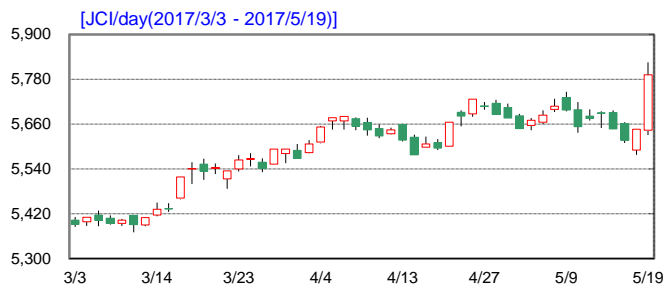


【インドネシア】

【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 2.1%高、S&P の長期価格付け引き上げで急伸

ジャカルタ総合指数は週間で 2.1%高と 3 週ぶりに反発。週末の急騰が奏功した。週初の 15 日は 4 月の貿易黒字が 12 億 4000 万ドルと市場予想から上振れしたことを受けて続伸。ただ、16 日に流れが反転すると軟調な値動きが続き、18 日には寄り付きで 5600 ポイントを割り込んだが、徐々に買い戻され 3 日ぶりに反発して引けた。19 日は米 S&P がインドネシアの長期価格付けを投資適格の「トリプル B マイナス」に引き上げたことが好感されて、終値で前日比 2.6%高と続伸し、過去最高値を更新した。今週はイベントが少ない中、前週末の勢いを維持できるかが焦点。25 日はキリスト昇天祭の祝日で休場。

▼指数チャート

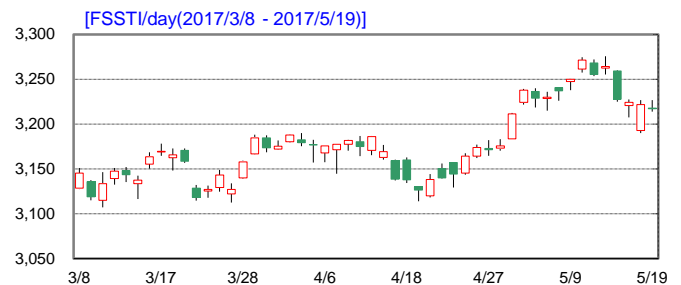


【シンガポール】

【先週の動き／今週の展望】ストレーツタイムズ指数は 1.2%安、今週は 23 日に 4 月の CPI 発表

ストレーツタイムズ指数は週間で 1.2%安と 4 週ぶりに反落。週初の反発を除き、軟調な値動きが続いた。16 日は指数ウェートが大きい英系コングロマリットのジャーディン・マセソンを中心に利益確定売りが出て、指数は前日比 1.1%安と反落。17 日は 4 月の非石油地場輸出が前年同月比 0.7%減と 6 カ月ぶりにマイナスに転落したことが嫌気されると、その後もじりじりと値下がりし、結局週末まで 4 日続落して取引を終えた。今週は 23 日に 4 月の CPI、25 日に 1-3 月期の GDP 改定値、26 日に 4 月の鉱工業生産と経済指標の発表が続く予定。市場では、前年同月比の CPI 上昇率が 0.5%になると予想されている。

▼指数チャート

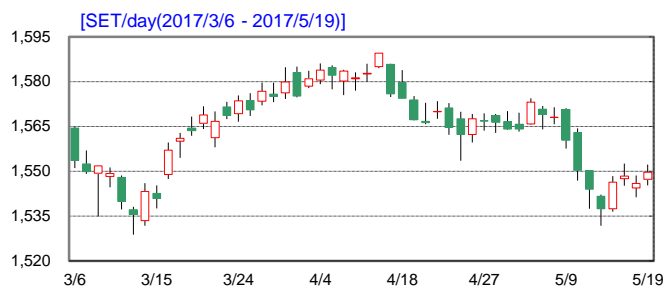


【タイ】

【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 0.4%高、原油価格回復を好感

SET 指数は週間で 0.4%高と反発。小幅なレンジでのみみ合いに終始した。週初の 15 日は 1-3 月期の GDP 成長率が前年同期比 3.3%と市場予想の 3.1%を上回ったものの、指数は下げ止まらず 6 営業日続落。一方で 16 日は、サウジアラビアとロシアのエネルギー担当相が前日の会談で、原油の減産期間延長に合意したことを受けた価格回復が好感されて反発。その後も一進一退が続いた。今週は 24 日に中央銀行が定例の金融政策決定会合を開催する予定で、政策金利は 1.50%に据え置かれるとの見方が優勢。外部要因では、米国の政治不安が続く一方、前週末の NY ダウが原油高を背景に続伸したことは追い風か。

▼指数チャート



【マレーシア】

【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 0.4%安、1-3 月期の GDP 成長率は前年同期比 5.6%

クアラルンプール総合指数は週間で 0.4%安と反落。方向感に乏しい 1 週間だった。15 日は前週末終値を挟んだ狭いレンジで推移。17 日は 4 月の CPI 上昇率が前年同月比 4.4%と高い水準にとどまり、インフレ懸念が続いていることが嫌気された。18 日は米国の政治の混乱を受け、景気刺激策の実施が遅れることへの不安から前日の NY ダウ平均が急落した影響で、指数は 3 日続落したが、19 日は 1-3 月期の GDP が前年同期比 5.6%増と市場予想の 4.8%増から上振れたことが好感されて、小幅ながら反発して取引を終了した。今週は国内の重要イベントが少なく、外部要因が株式相場を左右する展開になりそうだ。

▼指数チャート



本レポートは、株式会社 DZH フィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZH が信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZH はその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZH で入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZH は、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するにしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZH は一切その責任を負いません。

DZH は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZH およびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があり、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH 自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容について DZH は一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。